



茶の薫る丘

学校だより 第3号
開校43周年

令和4年6月1日発行

雑草との闘い ～心の庭の手入れ～

新年度が始まって約2か月、さわやかな新緑から深緑へと、木々のあふれ出す生命力を感じます。新しい学校生活が始まった黒須中生も同様に、瑞々しさの中にも日に日に力強さも加わってきつつあるように感じます。

学習や部活動・その他の学校生活など、日々の積み重ねを通して、生徒一人一人も「新緑」がさらに「深緑」へ、中身がしっかりと充実していくことを期待しています。

さて、この緑鮮やかな季節を全く別な角度から捉えると、「緑深まる季節を迎える」ことは、「雑草との闘いの始まり」という側面もあります。これは一部の人の実感なのかもしれませんが、毎年、雑草との闘いに相当な時間と労力を費やしている人にとっては、切実な現実問題なのです。

「雑草」という言葉に関連し、以前読んだ本に以下のような話があったのを思い出します。それは、京セラの稲盛和夫会長の「未来を生きる君たちへ」と題する特別講話の一部です。

心は自分で手入れしなければならない

イギリスの哲学者ジェームス・アレンは、人間の心を庭に例えて、次のように表現しています。

「人間の心は、庭のようなものです。それは、知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります。そこからは必ず何かが生えてきます。

もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を蒔かなかつたら、そこはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生い茂ることになります。優れた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種を蒔き、それを育み続けます。

同時に、私たちも、素晴らしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに、清らかな正しい思いを植えつけ、それを育み続けなければなりません。」

このように、ジェームス・アレンは言っています。

つまり、人間の心というものは、自分で手入れをしなければならないのです。放っておいたのでは、雑草が生い茂る庭のようになってしまいます。素晴らしい草花が綺麗に咲いた庭のような美しい心にするためには、自分の心の状態をよく理解して、手入れをする必要があるということを知っています。

私たちは皆、生きていくために毎日食事を摂っています。食べ物の栄養によって、自分の体を成長させ、健康を維持し、このことは誰もが当たり前に行っています。

ところが、体の栄養には気を遣いお金も当たり前使うのに、心の栄養には、そこまで意識している人は、そう多くないのではないでしょうか。

しかし、ジェームス・アレンが言うように、心に栄養を与え、自分の心の手入れにもっと意を払い、時間とお金、そして労力をかけなければならないのではないでしょうか。心の庭が雑草に覆われないよう、素晴らしい自分の人生を生きるために、私たちは自分自身の心の庭の手入れをしなければならないのです。

そして、ここでもう一つ忘れてはならないのは、「続ける」という言葉です。

手入れをし続けなければ、人の心は再び雑草に覆われてしまいます。そう考えると、人の心の庭の手入れは、草刈りをしてしてもまた生えてくる実際の雑草との闘いと全く重なるように感じるのです。